

令和元年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

資料5-3

(センターの名称: 鶴嶺西地区地域包括支援センター みどり)

国評価 (3/31時点)		市評価 (3/31時点)	
○	×	○	×
50個	5個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>これまで取り組むことがなかった統計による事実に基づく地域課題を抽出する流れについて学びを深めた結果、みどりの地区では引きこもりや居場所づくり、後進(支援者の担い手)の育成などが課題であることが分かった。さらに課題解決のために包括内のディスカッション・相談を通して意識の統一ができ、自包括内の結束力強化ができた。包括独自で取り組む介護予防の脳活クラブ開催や地域サロンでの出前講座、地域福祉祭まつり・昼食会等の行事への参加、まちぢから協議会、地区ボラセン会議、民児協会議等地域の会議に出席し啓発活動に努めた。活動を進める中、地域の支え手である民生委員・ボラセン職員の地域福祉に対する理解や思いから、「自立支援」「個人の尊厳保持」などへの理解を更に深める必要性を感じ、今後は多様な価値観や受け止め方がある中で相互の関係性を築きながら共に理解を深めていきたい。</p>
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和2年6月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づき、着実に事業を実施し、全体として目標を達成できている。 ・国評価の個人情報持出時の管理について、平成30年度の課題となっていたが、令和元年度は持ち出し簿の作成、運用がされ、改善が行われている。 ・国評価の包括的継続的ケアマネジメントの項目について、平成30年度は複数項目で評価が×となっていたが、令和元年度は事例検討会の開催、サロン等での出前講座の実施などの取組が行われ、評価に反映されている。 ・国評価の地域ケア会議の議事録や検討事項の共有について、×となっているが、参加者にアンケートを実施するなどの取組は行っていた。今後、議事録やアンケートの結果を参加者と共有できるように、取組が行われることを期待する。
---------------------------------	--



推進委員会に、地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、報告し、意見徴収を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、推進委員会の意見等を踏まえ、決定する。